

DIRECTED BY DENNIS HOPPER

「イージー★ライダー」の栄光の影で、闇に葬り去られた映画があった。

# ラストムービー

THE LAST MOVIE

Dennis Hopper

Peter Fonda

Kris Kristofferson

Samuel Fuller

Stella Garcia

John Phillip Law

Thomas Millian

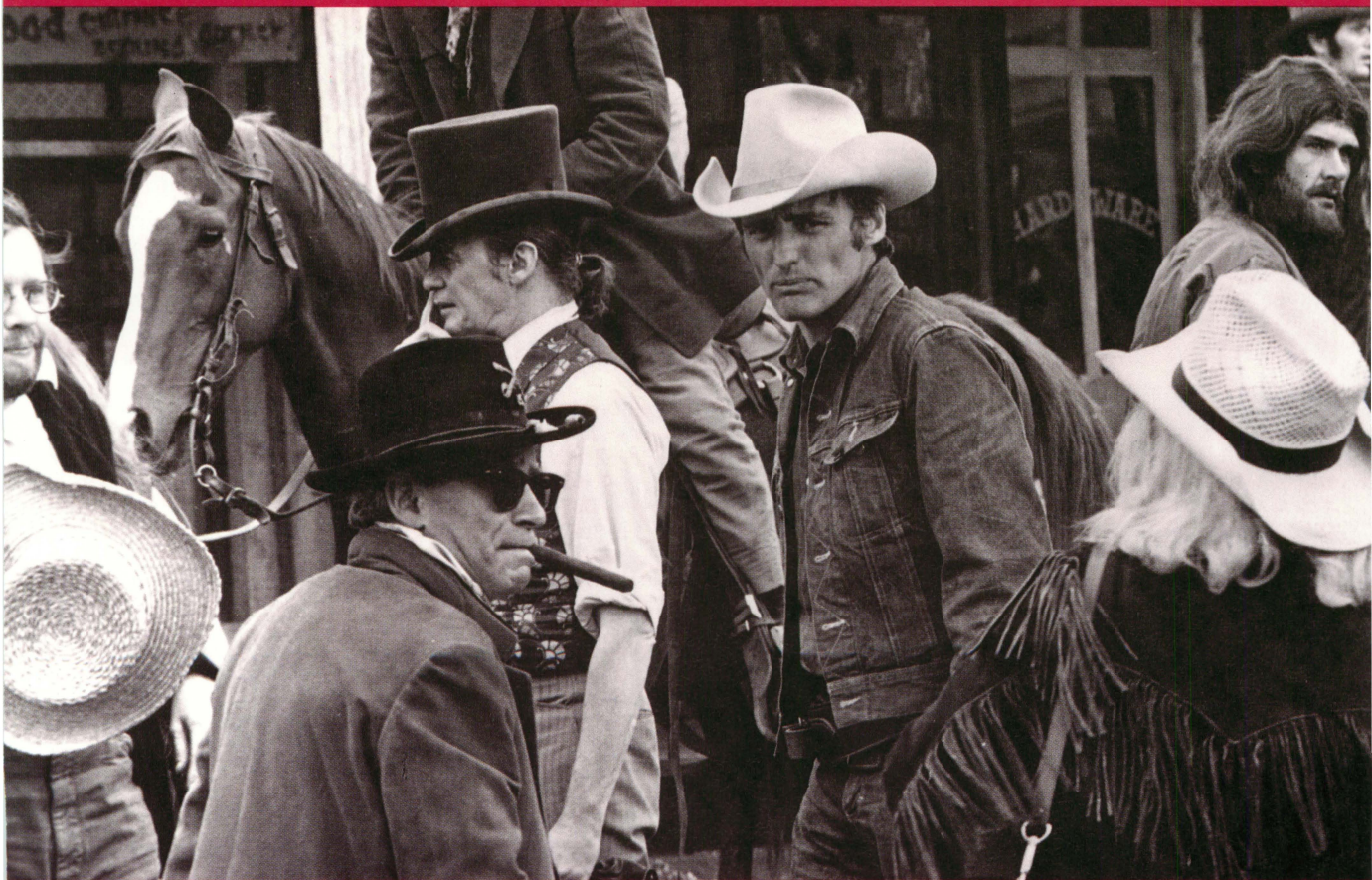
Jim Mittleham

Dennis Stock

Dean Stockwell

Julie Adams

Sylvia Miles



製作総指揮 / マイケル・グラスコフ 製作 / ホール・レイス 原案 / デニス・ホッパー・スチュアート・スターン 脚本 / スチュアート・スターン

監督 / デニス・ホッパー 撮影 / ラスロ・コバックス 音楽 / クリス・クリストファーソン他

出演 / デニス・ホッパー ビーター・フォンタ クリス・クリストファーソン サミュエル・フラー ステラ・ガルシア ジョン・フィリップ・ロー トーマス・ミリアン

ジム・ミッチャム デニス・ストック デイモン・ストックウェル ジョリー・アダムス シルヴィア・マイルス

1971年・米・ユニヴァーサル映画 配給 / 日本ヘラルド映画 宣伝協力 / PARCO

“私は、ハワード・ホークス、ジョン・フォードそしてヘンリー・ハサウェイの伝統を受け継ぐ、アメリカの映画作家だ。”——デニス・ホッパー

映画俳優デニス・ホッパーの最近の活躍はめざましいものがある。『悪魔のいけにえ2』(86年)の狂気テキサスレンジャー、『ブルー・ベルベット』(86年)のヤク中にしてマザコンの姿態と続いたと思ったら、アル中を演じた『勝利への旅立ち』(86年)ではとうとうアカデミー賞にまでノミネートされてしまった。この狂い咲きともとれる“復活”までの10数年間、すなわち『イージー★ライダー』(69年)でカンヌ映画祭新人監督賞を受賞して以降、映画監督デニス・ホッパーはどこへ行っていたのだろうか？

1971年、『イージー★ライダー』の大成功によりユニヴァーサルから100万ドルの製作資金を引き出したホッパーは、彼が永年暖めてきた映画の製作にとりかかった。

当初、ジェイソン・ロバース主演で予定されていたこの作品、すなわち『ラストムービー』は、ほぼ10年の歳月を経て、ホッパー自らの監督兼主演という形で実現した。冒頭の約30分間、映画はベルーでピリー・ザ・キッドの映画を撮るサムエル・フラー監督一行を見つめる。撮影クルー、役者達を演じるのは当時のホッパーの仲間達で、ホッパー演じる主人公カンザスはスタントマンという設定だ。毎夜繰り広げられる乱痴気騒ぎに強い嫌悪感を抱く彼はクルーの中で唯一正常な人間に見える。撮影終了後も村に残った彼は、知り合ったベルー女性マリア(ステラ・ガルシア)

との静かな暮らしに心の平穏を見出す。映画は実はここから本題に入る。金採掘にうつつめかす友人ネヴィル(ドン・ゴードン)を通じて知り合った金持ちのアメリカ夫婦一行との、酒とドラッグに溺れた日々の中で、カンザスは次第にアイデンティティを失なっていく。そして、腐敗の象徴とも言うべきこのアメリカ人の妻(ジュリー・アダムス)からさえも侮辱されたカンザスは遂に不条理の世界へとまっけていく。

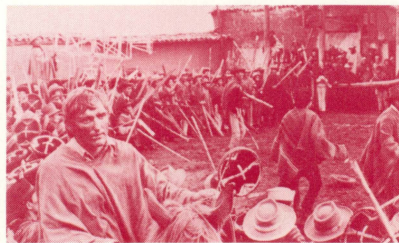
気がつくと彼はインディオ達の“儀式”に加わっていた。それは彼らが畏怖の眼で見つめてきた映画撮影の再現であった。木の枝でカメラや集音マイクを作り、たいまつで照明で行なわれるこの“儀式”は、ひとつだけハリウッド式の撮影と違う点がある。それは彼らにとって撮影は“虚構”ではなく紛れもない“現実”だという点だ。決闘シーンは実弾で行なわれるのだ。カンザスは縛り首になる役を当てがわれ牢屋にとじ込められる。脱獄した彼は肩を撃ち抜かれ、現実とも幻覚ともつかない恍惚状態の中で死を迎えようとしている。この映画は以上のような物語を描いた『ラストムービー』という映画を素材に、それを第三者的なさめた眼で見つめ、ばらばらにして再構成した作品という複雑な構造となっている。事実、ドラマの流れは絶え間なく挿入されるイメージの断片によって寸断され、時間さえも一定方向には流れていない。

結果だけを述べると、ユニヴァーサルはそうした複雑な点が“観客をからかっている”と考え、再編集を拒否したホッパーに対し、ニューヨーク、ロサンゼルスで二週間、サンフランシスコで三日間のみ上映し、その後の配給を取り止めるという措置をとった。この打撃により、ホッパーはハリウッドを去り、アルコールとドラッグの中毒症状により映画作家としての活動は10年以上空白となる。……だが、この作品に何らかのインスピレーションを受けた者も少なからずいる。71年度のヴェネチア映画祭の審査員達はこの作品をグランプリに選出しているし(映画祭自体が中止となり発表されなかった)、後に『バリ、テキサス』(84年)の脚本を書くL・M・キットカーソンはこの映画を製作するデニス・ホッパーの姿を描いたドキュメンタリー映画“American Dreamer”(71年/未)を撮っている(ローレンス・シラーと共同)。ヴィム・ヴェンダースの『アメリカの友人』(77年)でのホッパーがカンザスそのままのスタイルで登場し、相棒の麗作画家をサムエル・フラーが演じているのも決して偶然ではないだろう。久々の監督作『カラーズ』(88年)が全米で大ヒットした今こそ、17年間の長い眠りから解き放たれたこの『ラストムービー』を再発見すべき時なのだ。

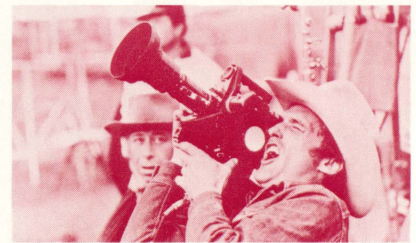
1971年・米・ユニヴァーサル/スタンダード/108分



●キャスト  
 カンザス——デニス・ホッパー  
 アンダーソン夫人——ジュリー・アダムス  
 アンダーソン氏——ロイ・エンジェル  
 牧師——トーマス・リアン  
 ネヴィル——ドン・ゴードン  
 マリア——ステラ・ガルシア  
 映画監督——サムエル・フラー  
 スクリプター——シルヴィア・マイルズ  
 スチールカメラマン——デニス・ストック  
 美術担当者——ジム・ミッチャム  
 カウボーイ歌手——クリス・クリストファーソン  
 ”——ジョン・バック・ウィルキン  
 役者(ピリー・ザ・キッド役)——ディーン・ストックウェル  
 役者(ギャング)——ラス・タンブリン  
 役者(銀行家の娘)——ミシェル・フィリップス  
 役者(保安官)——ピーター・フォンダ  
 役者——ジョン・フィリップ・ロー  
 トーマス・メルカド——ダニエル・アデス



●CAST  
 Kansas——Dennis Hopper  
 Mrs. Anderson——Julie Adams  
 Mr. Anderson——Roy Engel  
 Priest——Tomas Milian  
 Neville——Don Gordon  
 Maria——Stella Garcia  
 Director——Samuel Fuller  
 Script Girl——Sylvia Miles  
 Still Man——Dennis Stock  
 Art——Jim Mitcham  
 Minstrel Wrangler——Kris Kristofferson  
 ”——John Buck Wilkin  
 Billy——Dean Stockwell  
 Gang——Russ Tamblyn  
 Banker's Daughter——Michelle Phillips  
 Sheriff——Peter Fonda  
 Little Brother——John Phillip Law  
 Thomas Mercado——Daniel Ades



●スタッフ  
 製作総指揮——マイケル・グラスコフ  
 製作——ポール・リュイス  
 原案——デニス・ホッパー&スチュアート・スターン  
 脚本——スチュアート・スターン  
 監督——デニス・ホッパー  
 撮影——ラズロ・コヴァクス  
 音楽——クリス・クリストファーソン 他  
 編集——デニス・ホッパー 他  
 ●STAFF  
 Executive Producer——Michael Gruskoff  
 Producer——Paul Lewis  
 Based on a story by——Dennis Hopper / Stewart Stern  
 Screenplay——Stewart Stern  
 Director——Dennis Hopper  
 Director of Photography——Laszlo Kovacs  
 Music——Kris Kristofferson  
 Editors——Dennis Hopper

10月21日(金)ロードショー  
**P A R C O 劇場**

渋谷パルコ パート1 9F  
 477-5858